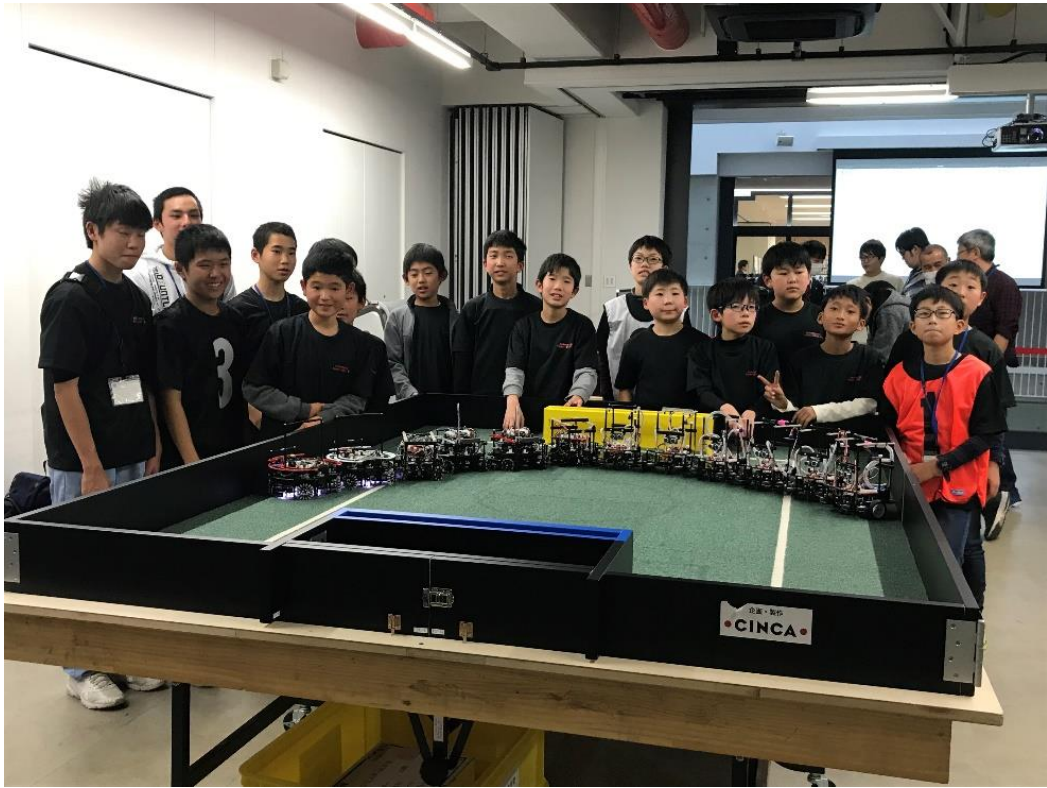




ロボットクラブ東海ブロック大会優勝！



↑優勝したTeam Takahama K-ING mini。全国大会出場が決定しました。



↑全国大会出場が決定したチーム大地

2019年12月7日（土）にロボカップジュニア東海ブロック大会があり、たかはま夢・未来塾ロボットクラブのTeam Takahama K-INGminiが、ライトウェイトリーグで、優勝しました。これにより、全国大会（ロボカップジュニアジャパンオープン2020in和歌山）への出場が決定しました。

また、ビギナズリーグでも6位・7位8位に入賞しました！
このうち、チーム大地も全国大会に出場することが決まりました。

ロボカップジュニア2020in和歌山は、4月24日（金）～26日（日）、和歌山市ビッグホールにて開催予定でしたが、中止になりました。

発行元 たかはま夢・未来塾
444-1305 愛知県高浜市神明町2-18-13
開館日時 月・火・木・金 9時～12時

E-mail miraijuku@katch.ne.jp
TEL & FAX 0566-87-7608
URL: <http://yume-mirai-juku.com>

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定通りに講座が開催されない場合がございます。

ロボカップ アジアパシフィック2019モスクワ出場！



アジアパシフィック大会の思い出 神谷 誠（南中学校3年）

ノード大会を終え、ロボットの修理をすると、その翌日からロシア遠征が始まりました。10時間のフライトの後、ロシアに到着した時は、現地の暖かさにびっくり。気候は毎日が曇りや雨、ロシアの人々は傘をさしません。宿泊先のホテルも、バウマン工科大学から近く、会場には多くの選手やその家族。現地の大学生の姿も多く見られました。まるで、自分がモスクワに留学しているような雰囲気でした。

大会にはトラブルがつきもの、実際に試合を始めるとロボットはボールを追いません。試合後、赤外線ボールの不備を発見して、試合で初めて抗議をしました。また、世界のコートは、繊維が毛羽立ちやすく、試合後のタイヤの清掃も大変でした。タイヤだけでなく、予備部品の必要性も実感しました。大会の運営はすべて英語。伝言板や、口頭での大会の指示が理解できず、他のチームに通訳を助けてもらいました。自分自身の勉強が足りないことも反省点の一つになりました。大会の結果も、入賞に届かなかったもの残念な反省の一つです。しかし、この遠征から得られたことも多くあります。自分の体調管理や、危機管理、自分だけでなくそれを支えてくれる家族やスタッフの人々がいるからこの活動が出来ることを改めて学べたよい遠征でした。

アジアパシフィック大会感想 名倉 稜登（南中学校2年）

僕は去年11月にロシアで開催されるアジアパシフィック大会に参加してきました。試合は全6試合行い3勝3敗で20チーム中6位の成績でした。国際大会は日本の大会と違いすべての会話を英語で行わなければならない、必死に英語で会話して、試合に勝てたことは日本での勝利とは違った喜びを感じました。大会期間中に英語でのインタビューも必須でしたが、事前にプレゼン資料を用意しており英語で説明したのですが、見事高得点を取ることができたことが一番印象に残っています。他国の選手が製作したロボットも見ることができましたが、素材やセンサーなどロボットを製作するうえでの発想は非常に参考になりました。国際大会はロボットの試合だけでなく、英会話など日本では体験できないことが体験できたので、次も機会が得られるようにチャレンジしていきます。

